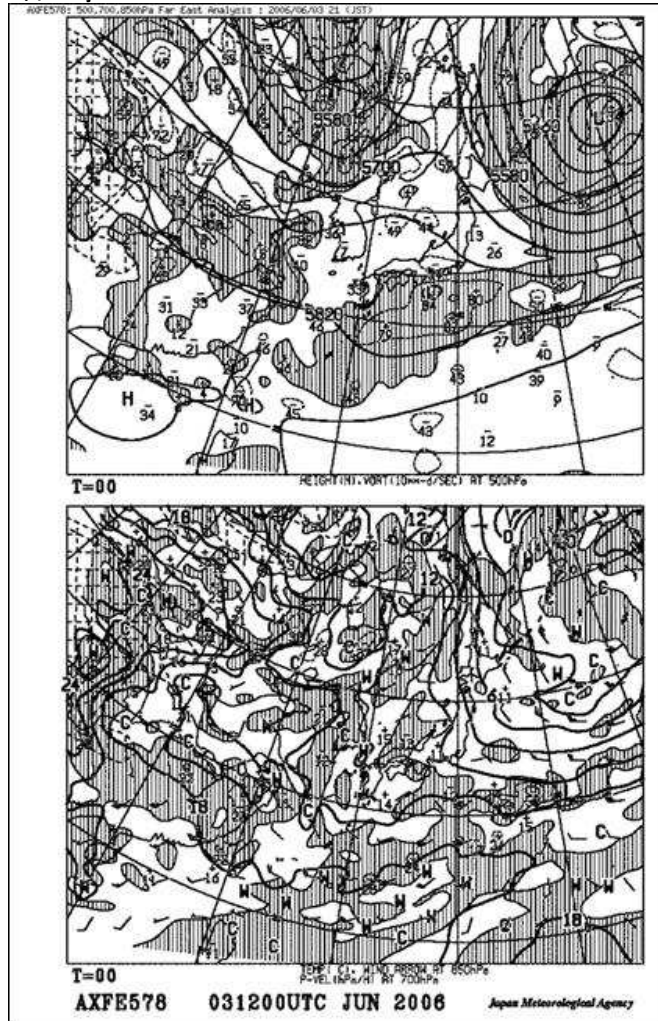
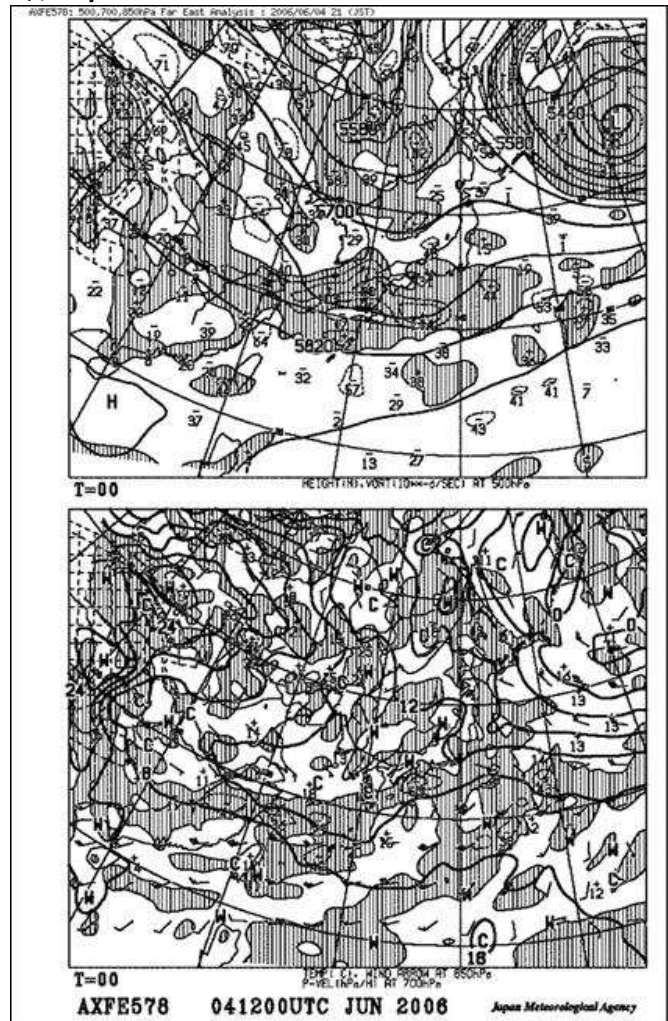


500hpa面の等高線の移り変わりを見ると、期間を通して繰り返しリッジが通過して、リッジの通過時には負渦度領域にも覆われていたことがわかります。

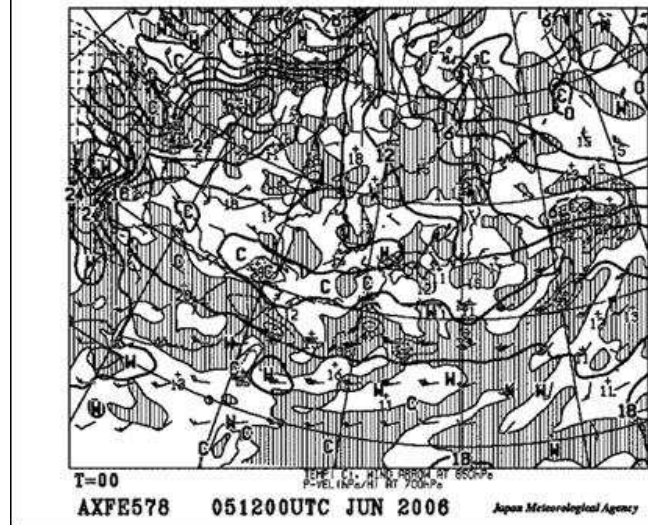
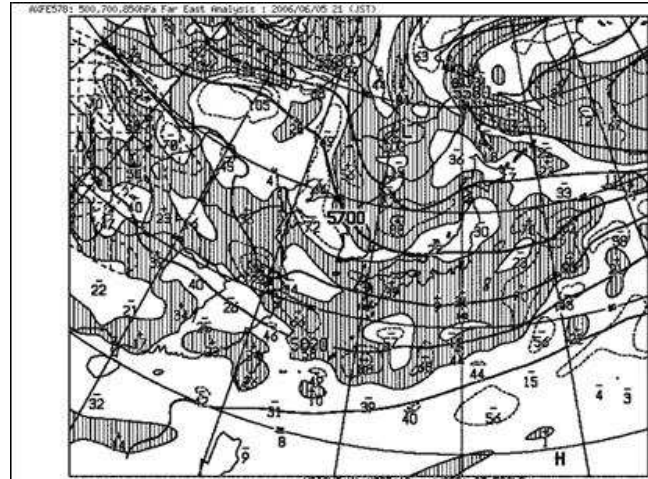
500hpa面高度と渦度・700hpa面鉛直流と850hpa面気温
3日21時



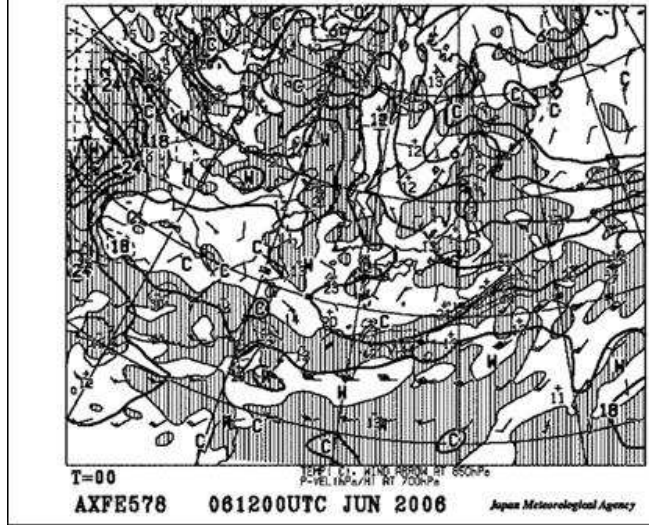
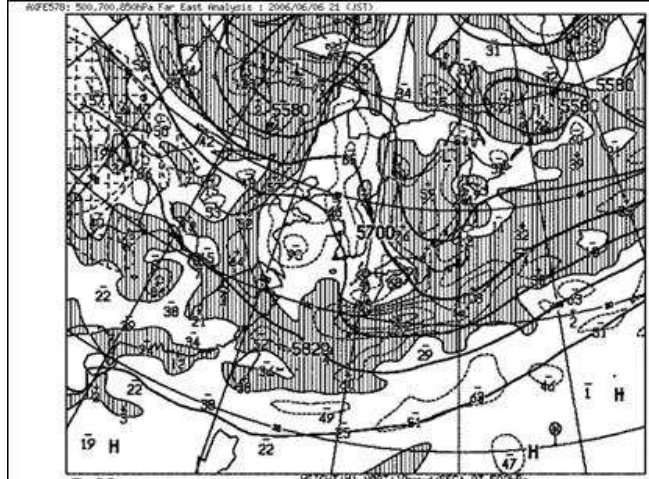
4日21時



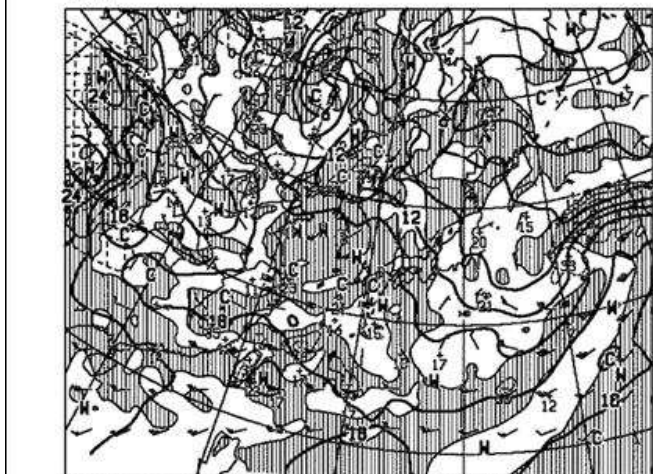
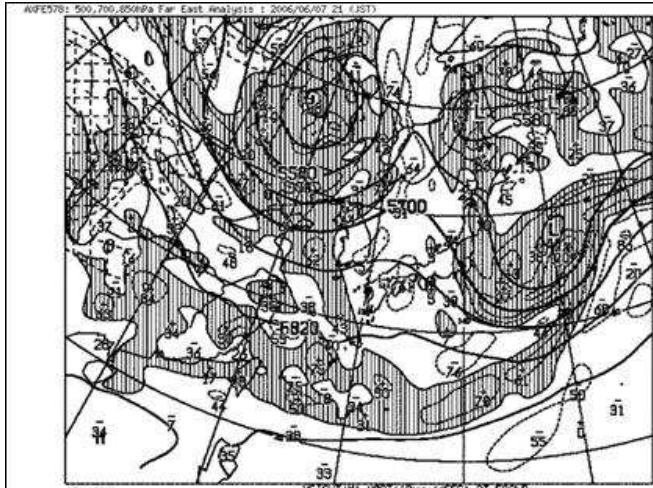
5日21時



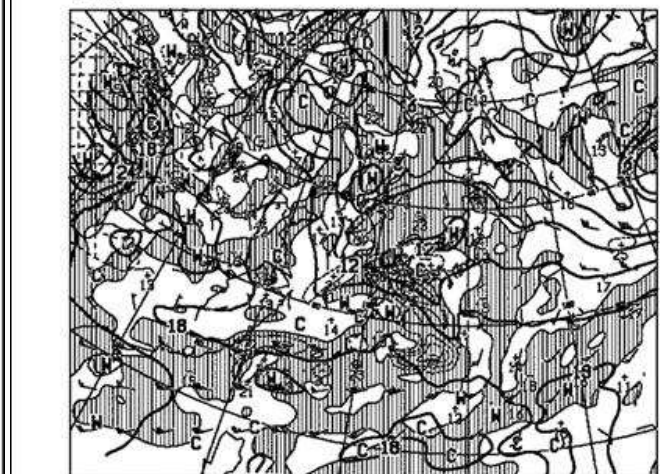
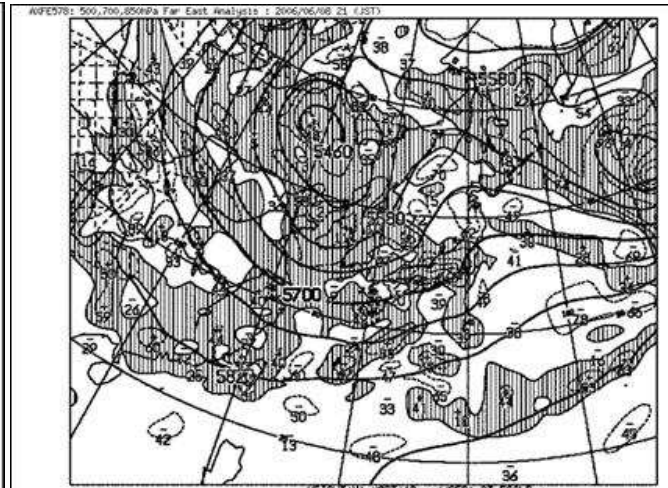
6日21時



7日21時



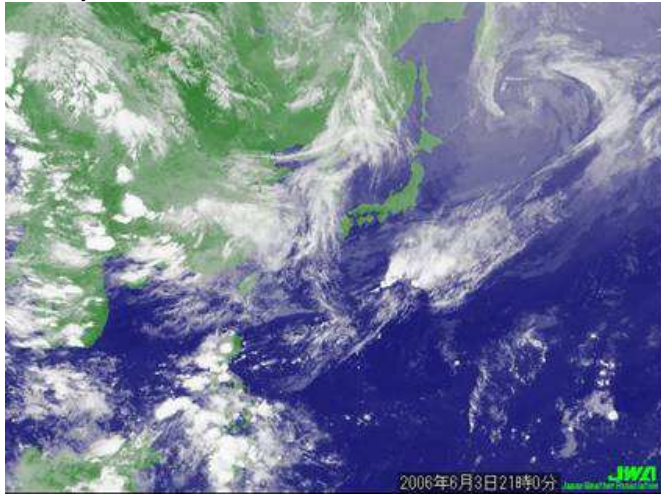
8日21時



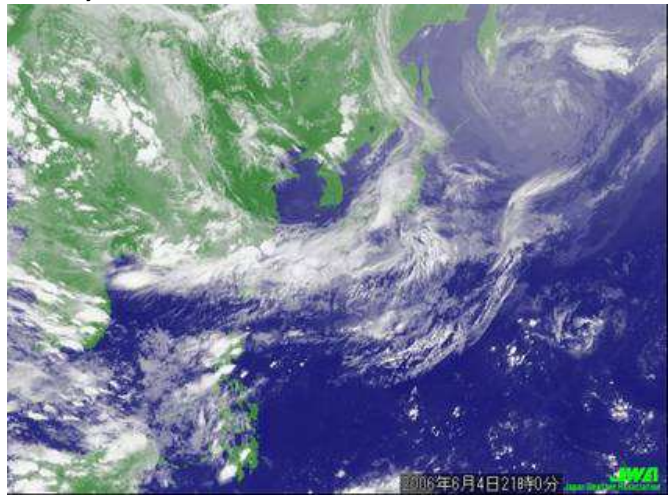
以上から、この期間は高気圧に広く覆われることが多く、上空のトラフ通過時にもダクトによるオープンが確認されていたことからダクト発生条件が極めてそりやすい環境であったものと考えます。

【参考】赤外線雲画像

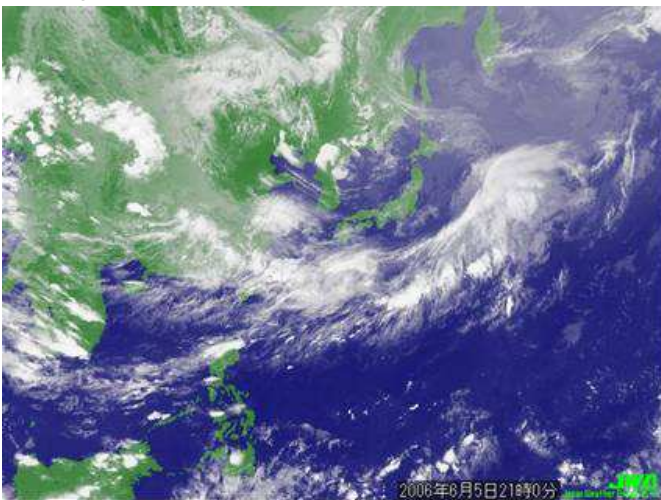
3日21時



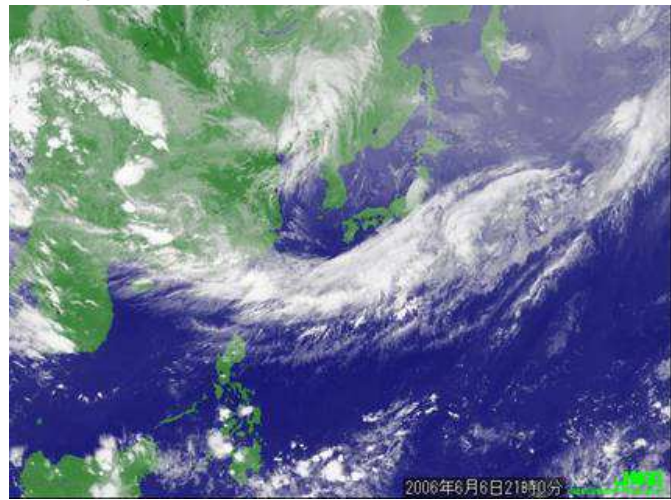
4日21時



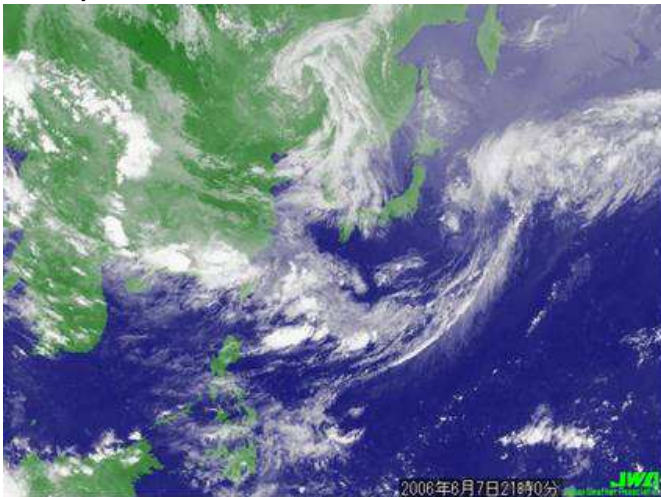
5日21時



6日21時



7日21時



8日21時

